

様式第1 (第3条関係)

特定施設(有害物質貯蔵指定施設)設置(使用、変更)届出書

XXXX年 X月 X日

(あて先) 一宮市長

該当しない項目に線を引く。

提出年月日を記入する。(郵送の場合は、発送日)

住所 一宮市××町1-2-3

氏名又は名称

届出者 法人にあっては代表者氏名 ○○株式会社

代表取締役 一宮 太郎

水質汚濁防止法第5条第1項、第2項又は第3項(第6条第1項又は第2項、第7条)の規定により、特定施設(有害物質貯蔵指定施設)について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		○○株式会社 本社工場		※整理番号		
工場又は事業場の所在地		一宮市××町1-2-3		※受理年月日	年 月 日	
第5条第1項関係	特定施設の種別	66 電気めっき施設		※施設番号	<p>水質汚濁防止法施行令別表第一の号番号と名称を記入する。</p> <p>・有害物質使用特定施設の該当有無をチェックする。 ・有害物質使用特定施設に非該当の場合には、「別紙1の2」添付不要。</p> <p>非該当の欄には、斜線を引く。</p>	
	有害物質施設の該当の有無	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無		<input type="checkbox"/>
	△ 特定施設の構造	別紙1のとおり。		※審査結果		
	△ 特定施設の設備(有害物質使用特定施設の場合に限る)	別紙1の2のとおり。		※備考		
	△ 特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。				
	△ 汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。				
	△ 排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。				
	△ 排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。				
第5条第2項関係	△ 排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。				
	有害物質使用特定施設の種別					
	△ 有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。				
	△ 有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。				
	△ 汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。				
△ 特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。					
△ 特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。					

様式第 1 (裏面)

第 5 条 第 3 項 関 係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input type="checkbox"/> 有害物質使用特定施設 <input type="checkbox"/> 有害物質貯蔵指定施設		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;">非該当の欄には、斜線を引く。</div>
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙 1 2 のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙 1 3 のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙 1 4 のとおり。		
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び排出の系統	別紙 1 5 のとおり。		

備 考

- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる号番号及び名称(指定地域特定施設にあたっては、名称)を記載すること。
- 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙 1 の 2 を提出することを要しない。
- 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当するものにレ印を記入すること。
- 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、出来る限り、図面、表等を利用すること。
- 5 ※印の欄には、記載しないこと。
- 6 排出水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
- 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 8 届出及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	66-②	工場において使用している番号等があれば、記入する。
特定施設番号及び名称	66 電気めっき施設	水質汚濁防止法施行令別表第一の号番号と名称を記入する。
型式	全自動銅ニッケルクロム ラインメッキ (令和〇年△△△社製)	型式、材質、大きさ等を記載し、カタログなどを添付する。
構造	鉄製、内部を 塩化ビニールライニング (構造図は資料〇のとおり)	
主要寸法	メッキライン 長さ16.6m×幅1.6m×高さ2.3m メッキ槽 高さ0.7m×幅1.1m 1基	工場全体の配置図を添付し、特定施設の設置場所を明示する。
能力	ねじ 〇〇〇個/日 (あるいは△△kg/日 等)	
配置	別紙配置図のとおり	別紙配置図のとおり
設置年月日		<ul style="list-style-type: none"> ・使用届の場合には、「設置年月日」を記入する。 ・設置・変更届の場合には、「工事着手予定年月日」、「工事完成予定年月日」、「使用開始予定年月日」を記載する。
工事着手予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
工事完成予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
使用開始予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
その他参考となるべき事項	床面は厚さ100mmのコンクリート 周囲には側溝を設け、流出を防止	<ul style="list-style-type: none"> ・有害物質使用特定施設に該当する場合には、床面の構造及び周囲の構造等を記入すること。 ・防液堤等については、可能な場合には容量を記載すること。

- 備考
- 1 配置の欄には、当該施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
 - 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を機材すること。

特定施設の設備

工場又は事業場における施設番号	66-②	
特定施設番号及び名称	66 電気めっき施設	
設備	地上配管、排水溝、ためます	
構造	配管：ステンレス製 排水溝、ためます ：コンクリート製、厚さ50mm	
主要寸法	配管：直径100mm×30m 排水溝：幅300mm×深さ200mm×10m ためます：500mm×500mm×400mm (途中で65-②及び66-①の排水溝と合流)	
配置	別紙配置図のとおり	別紙配置図のとおり
設置年月日		
工事着手予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
工事完成予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
使用開始予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日	
その他参考となるべき事項	<p>配管については、地下配管(トレンチ)、地下配管(埋設)などのケースも考えられる。トレンチの場合はトレンチの構造についても記入すること。</p> <p>「設備」の欄には、施設に付帯する配管等、排水溝等の設備の名称を記入すること 「構造」の欄には、設備の材質を記載するとともに、検知設備を有する場合にはその旨記入すること。 「主要寸法」の欄については、設備のうち、主なものについて寸法を記入すること 「配置」の欄については、建物の名称・位置等を記入するとともに、地下に設置されている場合にはその旨を明記すること。 有害物質を含む水が流れない場合には、構造等に関する基準が適用されないので、その他参考となるべき事項の欄にその旨記入すること。</p>	

- 備考 1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。
2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号	66-②				工場において使用している番号等があれば、記入する。
特定施設号番号及び名称	66 電気めっき施設				水質汚濁防止法施行令別表第一の号番号と名称を記入する。
設置場所	別紙配置図のとおり				設置場所が分かる図面を添付し、設置場所を明示する。
操業の系統	別添フロー図のとおり				特定施設を含む工程フローを記載する。
使用時間間隔	連続使用				
1日当たりの使用時間	8時間				
使用の季節的変動	無し				特定施設を含む作業工程で実際に使用している全ての原材料等について記入する。
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量	前処理工程 ○○kg めっき工程 ○○kg				
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	3~10	2~13		
	BOD	100	300		
	COD	50	100		
	SS	90	120		
	T-N	60	200		
	T-P	8	20		
	CN	50	70		
	Cr ⁶⁺	40	60		
	Cu	30	50		
汚水等の量 (m ³ /日)	通常	最大			
	10.0	20.0			当該特定施設から排出される汚水又は廃液の量を記入する。
その他参考となるべき事項	使用有害物質：シアン化カリウム、無水クロム酸、シアン化ナトリウム			使用有害物質	有害物質を使用している場合に記入する。

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号	1				工場において使用している番号等があれば、記入する。				
処理施設の設置場所	別紙配置図のとおり				設置場所が分かる図面を添付し、設置場所を明示する。				
設置年月日					年 月 日				
工事着手予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日				年 月 日				
工事完成予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日				年 月 日				
使用開始予定年月日	〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日				年 月 日				
種類及び型式	総合汚水処理施設 〇〇式				型式、材質、大きさ等を記載し、カタログなどを添付する。				
構造	コンクリート製								
主要寸法	XX×XX×XXm								
能力	35m ³ /時								
処理の方式	中和、還元、凝集沈殿				汚水処理の系統図を添付する。				
処理の系統	別紙のとおり								
集水および導水の方法	塩ビ管にて汚水処理施設に導水（別紙参照）				集水及び導水系統を工場図面等に明示する。				
使用時間間隔	連続								
1日当たりの使用時間	8時間								
使用の季節変動	なし								
消耗資材の1日当たりの用途別使用量	苛性ソーダ 1kg 亜硫酸水素Na 2kg PAC 5kg				汚水処理施設で使用する薬品等について、その種類と使用量を記入する。				
汚水等の汚染状態及び量		通常		最大		通常		最大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	pH	4~9	7~8	2~13	7~8				
	BOD	80	15	200	20				
	COD	40	10	80	20				
	SS	60	20	120	30				
	T-N	50	20	200	25				
	T-P	5	2	20	3				
	CN	50	0.1	70	0.5				
	Cr ⁶⁺	40	0.1	60	0.3				
	Cu	30	0.5	50	1				
	Zn	30	1	50	2				
	量(m ³ /日)	210		250					
残差の種類、1月間の種類別生成量及び処理方法	汚泥（50m ³ /月、脱水後7m ³ /月） 業者委託								
排出水の排出方法	処理水→No. 1排水口→側溝→△△川								
その他参考となるべき事項									

備考 1 汚水等の汚染状況の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。
2 排出水の排出方法の欄には、排出口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排水基準が定められている項目のうち、排水に含まれる項目や含まれる可能性のある項目を記載する。なお、記載した項目については、年1回の測定義務が生じる。

排水口名称等を記入する。雨水口を含み事業場内全ての排水口について記入する。

別紙 4

排水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		No. 1		No. 2	
排水の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	7~8	7~8	6~7	6~7
	BOD	15	20	10	15
	COD	10	20	9	14
	SS	20	30	20	30
	T-N	20	25	8	12
	T-P	2	3	0.8	1.2
	CN	0.1	0.5	-	-
	Cr ⁶⁺	0.1	0.3	-	-
	Cu	0.5	1	-	-
	Zn	1	2	-	-
排水の量 (m ³ /日)		通常	最大	通常	最大
		210	250	130	150
その他参考となるべき事項		<p>6 6-②など工程水 → No.1処理施設 → No. 1排水口 → 側溝</p> <p>し尿浄化槽排水 + 冷却水 → No. 2排水口 → 側溝</p> <p>雨水 → No. 3~No. 6排水口 → 側溝</p> <p>・別紙1、2の特定施設と別紙3の処理施設との関係を明示する。</p>			

備考 排水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

排水口名称等を記入する。

排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		No. 3~6			
排水水の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
排水水の量 (m ³ /日)		通常	最大	通常	最大
		0			
その他参考となるべき事項	<p>6 6 -②など工程水 → No. 1処理施設 → No. 1排水口 → 側溝</p> <p>し尿浄化槽排水 + 冷却水 → No. 2排水口 → 側溝</p> <p>雨水 → No. 3~No. 6排水口 → 側溝</p> <p>△△川 ↓ ◎◎川</p>				

雨水専用排水口であり、汚濁負荷がない場合には、排水水の汚染状態の欄は空欄、排水量は、0と記入。

・別紙1、2の特定施設と別紙3の処理施設との関係を明示する。
・排水口ごとに、排出先を記入する。

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

総量規制基準に係る愛知県告示の別表の「業種その他の区分」及び「番号」を記入する。
 「番号」は、「業種等及び規模一備考」(「617」、「2237一備」等)と記入し、別表備考欄の業種等に該当する場合、「その他参考となるべき事項」にその内容を記入する。

排水水の排水系統別の汚水状態及び量

通常:汚染状態(通常)×水量(通常)÷1000
 最大:汚染状態(最大)×水量(最大)÷1000

	業種その他の区分 (番号)	汚染状態 (mg/L)		水量 (m ³ /日)				指定項目の別 汚濁負荷量 (kg/日)		COD	
		通常	最大	通常	最大	Q _{co}	Q _{ci}	Q _{cj}	通常		最大
特定排水水	① 電気めっき業 201	10	20	36	43.5	16.5	-	27	0.36	0.87	※
	② 輸送用機械器具製造業 206	10	20	74	86.5	63.5	-	23	0.74	1.7	
	③ 輸送用機械器具製造業 206-備	10	20	100	120	90	-	30	1	2.4	
	④ し尿浄化槽 (150人槽) 232ア	30	40	30	40	-	40	-	0.9	1.6	
	合計			240	290	170	40	80	3	6.6	
特定排水水以外の排水水	種類及び用途	汚染状態 (mg/L)		水量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)					
		通常	最大	通常	最大	通常	最大				
	a 冷却水	3	4	100	110	0.3	0.44				
合計			100	110	0.3	0.44					
その他参考となるべき事項	③については、電気めっき工程であるため、業種その他の区分に備考を適用。										

当該工程の排水処理後の水質を記入する。

当該工程の排水量を記入する。

関節冷却水、ボイラーブロー水等が該当する。
 ※雨水の記入は、不要です。

備考

- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
- 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{no}」と、「Q_{ci}」を「Q_{ni}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
- 4 リン含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{po}」と、「Q_{ci}」を「Q_{pi}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
- 5 ※印の欄には記載しないこと。

総量規制基準に係る愛知県告示の別表の「業種その他の区分」及び「番号」を記入する。
 「番号」は、「業種等及び規模一備考」(「617」、「2237一備」等)と記入し、別表備考欄の業種等に該当する場合、「その他参考となるべき事項」にその内容を記入する。

排水水の排水系統別の汚水状態及び量

通常:汚染状態(通常)×水量(通常)÷1000
 最大:汚染状態(最大)×水量(最大)÷1000

業種その他の区分 (番号)	汚染状態 (mg/L)	水量 (m ³ /日)						指定項目の別 汚濁負荷量 (kg/日)		T-N	
		通常	最大	通常	最大	Qco	Qci	Qcj	通常		最大
① 電気めっき業 201	20 25	36	43.5	16.5	27	-	0.72	1.1	※		
② 輸送用機械器具製造業 206	20 25	74	86.5	63.5	23	-	1.5	2.2			
③ 輸送用機械器具製造業 206-備	20 25	100	120	90	30	-	2	3			
④ し尿浄化槽 (150人槽) 232ア	30 40	30	40	40	-	-	0.9	1.6			
合計			240	290	210	80	-	5.1	7.9		
種類及び用途	汚染状態 (mg/L)		水量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)		/				
	通常	最大	通常	最大	通常	最大					
a 冷却水	1	2	100	110	0.1	0.22					
合計			100	110	0.1	0.22					
その他参考となるべき事項	③については、窒素化合物による表面処理施設を設置する自動車付属品製造工程であるため、業種その他の区分に備考を適用。										

当該工程の排水処理後の水質を記入する。

当該工程の排水量を記入する。

関節冷却水、ボイラーブロー水等が該当する。
 ※雨水の記入は、不要です。

備考

- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
- 3 窒素含有量について記載する場合には、「Qc0」を「Qn0」と、「Qci」を「Qni」と読み替え、Qcjの項には記載しないこと。
- 4 りん含有量について記載する場合には、「Qc0」を「Qp0」と、「Qci」を「Qpi」と読み替え、Qcjの項には記載しないこと。
- 5 ※印の欄には記載しないこと。

総量規制基準に係る愛知県告示の別表の「業種その他の区分」及び「番号」を記入する。「番号」は、「業種等及び規模一備考」(「617」、「223ア一備」等)と記入し、別表備考欄の業種等に該当する場合、「その他参考となるべき事項」にその内容を記入する。

排水の排水系統別の汚水状態及び量

通常:汚染状態(通常)×水量(通常)÷1000
 最大:汚染状態(最大)×水量(最大)÷1000

業種その他の区分 (番号)	汚染状態 (mg/L)	水量 (m ³ /日)							指定項目の別 汚濁負荷量 (kg/日)		T-P
		通常	最大	通常	最大	Q _{co}	Q _{ci}	Q _{cj}	通常	最大	
① 電気めっき業 201	2	3	36	43.5	16.5	27	-	0.072	0.13	※	
② 輸送用機械器具製造業 206	2	3	74	86.5	63.5	23	-	0.148	0.26		
③ 輸送用機械器具製造業 206-備	2	3	100	120	90	30	-	0.2	0.36		
④ し尿浄化槽 (150人槽) 232ア	3	4	30	40	40	-	-	0.09	0.16		
合計			240	290	210	80	0	0.51	0.9		
種類及び用途	汚染状態 (mg/L)		水量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)		/				
	通常	最大	通常	最大	通常	最大					
a 冷却水	0.1	0.2	100	110	0.01	0.022					
合計			100	110	0.01	0.022					
その他べき参考となる事項	③については、りん化合物による表面処理施設を設置する自動車付属品製造工程であるため、業種その他の区分に備考を適用。										

当該工程の排水処理後の水質を記入する。

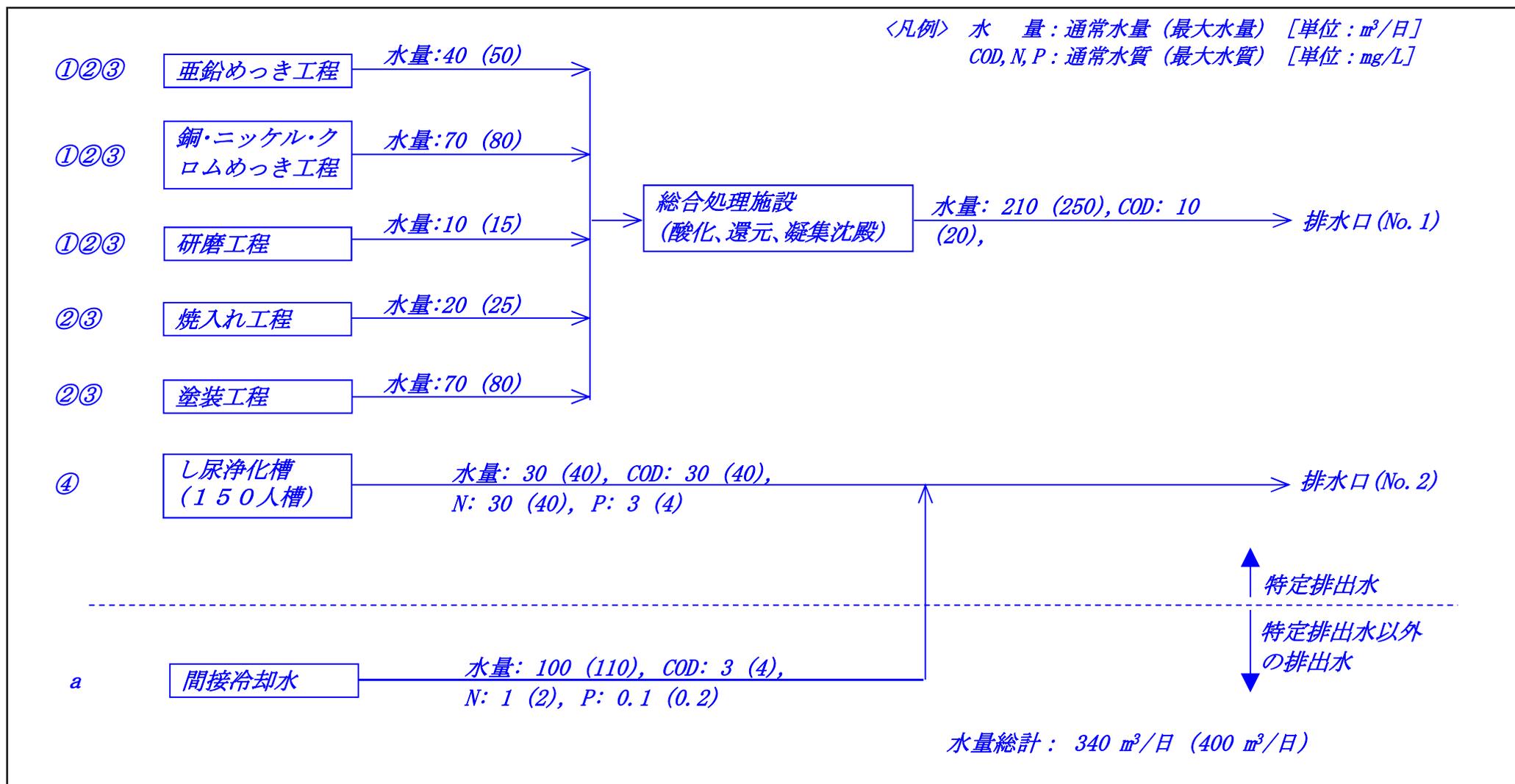
当該工程の排水量を記入する。

関節冷却水、ボイラーブロー水等が該当する。
 ※雨水の記入は、不要です。

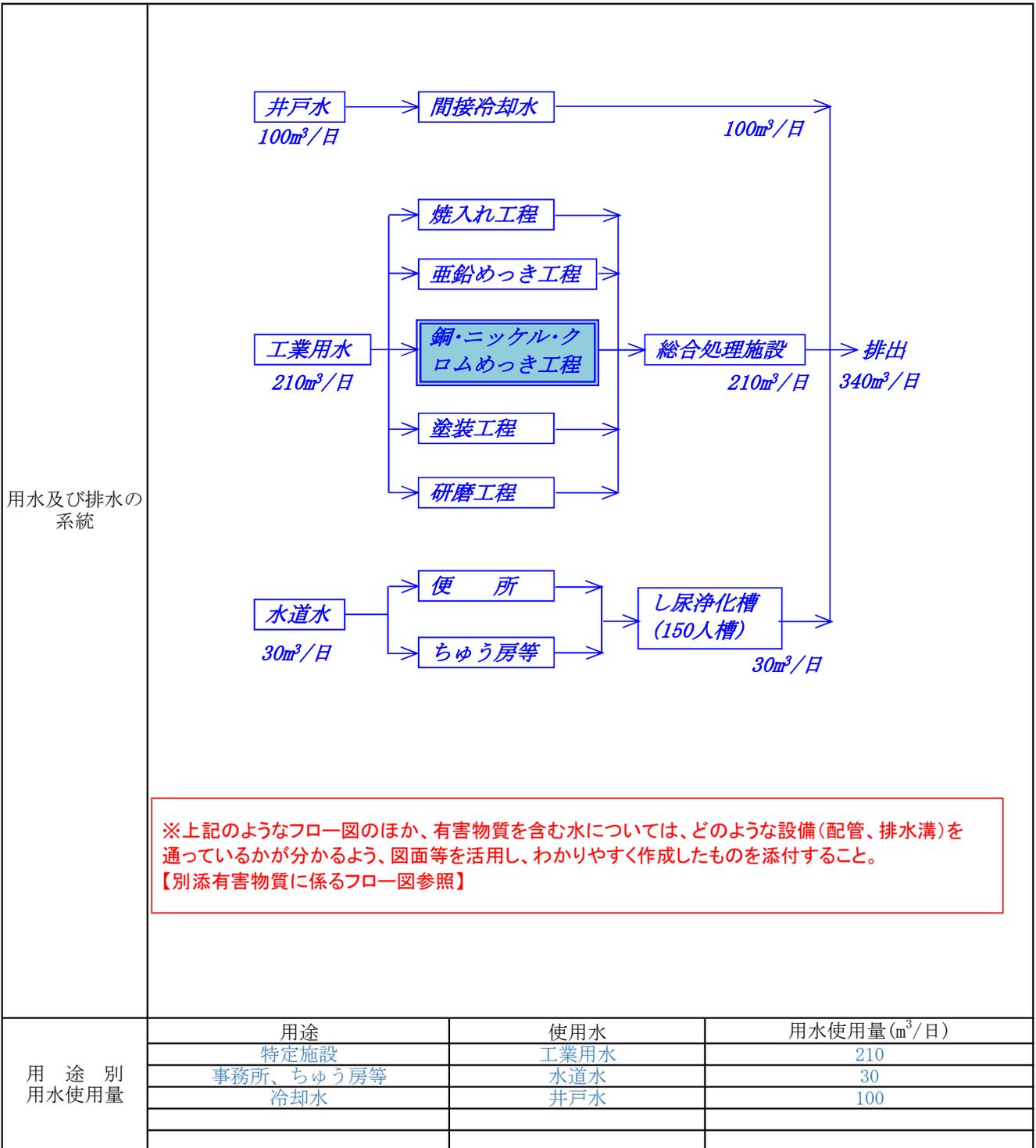
備考

- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
- 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{no}」と、「Q_{ci}」を「Q_{ni}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
- 4 りん含有量について記載する場合には、「Q_{co}」を「Q_{po}」と、「Q_{ci}」を「Q_{pi}」と読み替え、Q_{cj}の項には記載しないこと。
- 5 ※印の欄には記載しないこと。

別添



用水及び排水の系統



工場・事業場の概要

従業員数	350人	公害関係担当者 氏名及び連絡先	一宮 三郎 電話〇〇〇〇 (〇〇) 〇〇〇〇
主な生産品	自動車部品	日本標準産業分類 細分類番号	3113

(工場付近の略図)

工場・事業場付近の略図を記載する。
最寄りの駅など目印となる建物等を記入すること。

有害物質に係るフロー図

この記入例は模式案であるため、実際の記入においては、図面等を活用し、わかりやすく作成すること。

